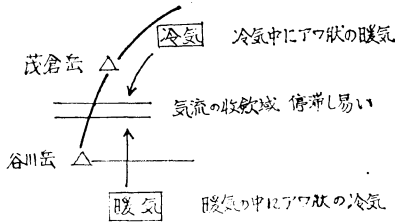


なとき出来易い。このときの観測では谷川岳と茂倉岳の気圧差は6mb位あった。(茂倉岳の方が低圧部)そして雨は低圧部の後側で降ることが多い。山が急峻なら風



は上昇するより曲げられる方が多いし、その山がゆるやかなら上昇成分の方が多い。昨年も述べたように気流分布の実験式は次のようである。

$$\theta = \theta_0 \left(1 - e^{-a \frac{\Delta h}{\Delta r}}\right) e^{-br} \sin \frac{w}{2}$$

ここで a と b は一定、 $a = 0.693$ 、 $b = 2.30 \times 10^{-5}$

谷川岳総合調査では風上の3地点を選んで色つきの煙をたき、それを飛行機から写し、また風船も飛ばそうとしたが、天気が悪く600mまでで失敗。しかし300~500mまで上れば上にのべた a 、 b の係数と一致するが、それ以下では乱流が多くあわないうことがわかった。

8. 大井正一 (気象庁高層課)：冬の五竜岳の気象 (スライドで五竜登山とそのときの天気図および気象状況を説明)

9. 久米庸孝 (気象庁予報課)：登山者のための週間予報 (季節予報と週間予報の使い方の解説)

昭和36年はこの他、以下に述べる研究会例会が開催された。

○第8回山の気象研究会例会 (ヒマラヤの気象)

昭和36年9月11日 (月) 午後5時30分

東京都社会福祉会館会議室

1. ヒマラヤの天気図 気象庁 大井正一
2. 今年度のヒマラヤの気象 日本山岳会 松田雄一
3. ヒマラヤとモンスーンの機構 気象庁 倉島 厚
4. ジュガール隊の報告 全岳連隊 山田隆保
5. ランタン, リルン隊の報告 大阪市立大 広谷光一郎
6. P29 隊の報告 大阪大 山本信樹

○第9回山の気象研究会例会

昭和36年12月8日 (金) 午後6時

気象庁第1会議室

1. 北ア滝谷の遭難 山小屋クラブ 松崎妙子
- 当日の唐松岳の気象 気象庁 大井正一
2. 西黒沢の遭難 (33.11月) 白峰山岳会 柿崎亀次
3. 谷川岳の遭難とその気象の統計 前橋測 野島 弘
4. 雪崩遭難の1つの例 気象庁 宮内駿一
5. 北陸地方の降雪分布と上層風の関係 気象庁 奥山 巖

○第10回山の気象研究会例会 (37年冬の遭難の検討)

昭和37年3月12日 (月) 午後6時

気象庁第1会議室

1. 青森県の遭難統計 青森気象台 榎 宏一
2. 今冬の遭難の検討
 - (1) 甲斐駒ヶ岳の遭難 東京白根会 鎌田 久
 - 青木秀夫
 - (2) 気象的考察 気象庁 大塚竜蔵
 - (3) 今冬の遭難について 広瀬 潔
 - (4) 当日の八方尾根の気象 大野 暉

(以上、文責 奥山)

中国地区月例会予告

—雪—

中国地区月例会は来る11月27日に松江市において下記のとおり開催されるはこびになりましたので、講演申込および宿泊申込は下記要領を参照の上10月20日までに手続きをお取り下さい。

記

1. 日時：11月27日 (水) 13時~16時

2. 会場：松江地方気象台 会議室
3. 題目：「雪」
4. 講演希望者は題目、所要時間を10月20日

四国地区月例会12月に開催予定

土佐沖低気圧

四国地区の月例会は「土佐沖低気圧」をテーマにして12月6日午後1時に高松で開催される予定です。詳細はおってお知らせします。